文化財をたずねて

No.25

赤穂の秋祭りをたずねて②
～赤穂市南部編～

発行　赤穂市教育委員会
編集　生涯学習課文化財係
（赤穂市加里屋 81　TEL 43-6962）

赤穂市南部の秋祭りでも、その地区に根差した多種多様な祭りがみられる。特に獅子舞は、尾崎地区に代表されるような勇壮なもの、鷆和地区にみられるような優美なものなど、北部のものと異なった趣向の獅子舞をみることができる。

また赤穂市南部には、尾崎地区の赤穂八幡宮とよく似た獅子舞が多く分布しており、御崎地区から折方地区までの市内の海岸部でみることができる。しかし塩屋地区以西では「カナスリ」や「スリカネ」とよばれる子役（唐子）がつき、にぎやかに獅子舞を盛り上げるのが特徴となっているなど、囃子や舞手の人数、持ち物、舞方などが各地区で異なっており、すべて異なった獅子舞となっているのも興味深い。

獅子舞のほかにも塩屋地区や御崎地区の屋台行事、各地区の神輿、赤穂大石神社神田の稲刈など、多彩な行事もそれぞれの地区の個性を表現しており、その歴史を物語っている。

こうした地域色豊かで多彩な秋祭りは、各地区の保存会や住民の方々の努力によって今も連綿と伝えられている。

①「稲荷神社の秋祭り」（中広・稲荷神社・10 月 15 日以降の日曜）

中広地区の稲荷神社は宇迦之御魂神を祀り、末社には少名毘古那神を祀る淡島神社がある。地元では「タケシゲ稲荷」ともよばれている。創建の年代は不明だが、江戸時代に遡る可能性が高い。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納のほか、頭人の参拝が行われる。頭人は中広地区を代表して尾崎地区の赤穂八幡宮の神幸式に参加するもので、獅子舞の宮入はこの頭人が八幡宮から帰ってくる夕方以降に行われる。

獅子舞は尾崎地区の赤穂八幡宮の流れをくむものだが、宮入時には獅子の舞手の肩車や、拝殿に走りこむ激しい動きがあり、独特の動きをみることができる。

宮入前の獅子舞奉納

獅子舞　宮入

②「春日神社の秋祭り」（南野中・春日神社・10 月第２日曜）

南野中地区の春日神社は、天児屋根命を祀る神社で、末社に水神社・金毘羅社がある。創建年代は不明だが、水神社はかつて浅野家が千種川に築造した亀の甲井堰の堤防上に祀られていたものという。

秋祭りでは子供神輿・獅子舞奉納が行われる。宵宮の奉納舞の際には、「ダンジリ」とよばれる仮設の舞台を境内に設置し、その上で獅子舞を舞う。かつては「ダンジリ」に車輪が付けられ、山車のように移動していた。獅子舞のための「シシダンジリ」は相生市域で多くみられ、南野中地区の獅子舞が相生市那波地区から伝わったとの伝承を裏付けている。

かつては「鼻高」・「唐子」も存在したが、現在では「獅子」と「オタヤン」のみが登場する。舞の演目は 15 種と多彩な舞が伝承されている。赤穂市内で「ダンジリ」を用いるのは南野中地区のみであり、珍しい。

子供神輿巡行

「ダンジリ」上での獅子舞奉納（演目「牡丹」）

③「抜穂祭」（上仮屋・赤穂大石神社・10 月第３日曜）

上仮屋地区の赤穂大石神社は赤穂藩歴代藩主と赤穂義士などを祀る神社。明治 33（1900）年に創建許可を受け、大正元（1912）年に現在地に鎮座した。周辺にあった神社も多く合祀されている。

神社の神田はかつて塩屋門跡付近にあり、神田の稲穂を刈り取る抜穂祭は昭和６（1931）年まで実施されていた。その後は中断していたが、平成 16（2004）年に神田での抜穂祭が復活し、御囃子・浦安の舞奉納・希望者による稲刈などが行われている。

神田までの行列

神田の稲刈り

④上仮屋獅子舞保存会（上仮屋・不定期）

上仮屋地区の獅子舞は、明治末期から大正時代に野中地区から伝わったものといわれている。昭和 36（1961）年頃に一度途絶えたが、平成 17（2005）年に復活した。主に城西地区の方々で伝承されており、現在は城西幼稚園や城西小学校の運動会、城西地区の敬老会、赤穂大石神社などで舞われている。

獅子舞（赤穂大石神社境内）

獅子舞（お城通り）

⑤「荒神社の秋祭り」（塩屋・荒神社・10 月 25 日に近い日曜）

塩屋地区の荒神社は素戔嗚尊を祀る神社で、末社に若宮社・金毘羅社・塩釜社・伊勢社がある。正確な創建は不明だが、秦河勝が素戔嗚尊を勧進し創建したとの伝承がある。地元では「正面さん」ともよばれている。

秋祭りでは神事・屋台行事・獅子舞奉納が行われる。屋台行事、特に大屋台が伝承されているのは市内でも珍しく、屋台音頭に合わせて行われる「練り」や「差し上げ」は優美な印象を与え、数ある播州の屋台行事の中でも特徴的である。屋台行事は平成 28（2016）年に赤穂市指定無形民俗文化財に指定されている。

境内での屋台

獅子舞奉納

⑥「日吉神社の秋祭り」（新田・日吉神社・10 月 25 日に近い日曜）

新田地区の日吉神社は大山咋神・香山戸神・羽山戸神を主祭神とする神社で、末社に稲荷神社、天満宮、水神社がある。由来は、新田開発により集落ができたため、承応元（1652）年に浅野長直が近江の山王大権現宮（日吉大社）を勧進したのが始まりという。そのため、江戸時代には山王権現神社と呼ばれていた。

秋祭りでは神事・子供神輿・獅子舞奉納を行っている。祭りは居村地区と新田地区の持ち回りで行われており、獅子舞も両地区で舞が異なっている。獅子舞は尾崎地区の赤穂八幡宮の流れをくんでおり、宮入時の道中舞でのゆっくりとした動きや、奉納舞での激しい動きなどが見どころである。

子供神輿

獅子舞奉納

⑦「八幡神社の秋祭り」（大津・八幡神社・10 月 25 日に近い日曜）

大津地区の八幡神社は仲哀天皇・応神天皇・神功皇后を主祭神とする神社。大津はかつて大きな港であり、和気清麻呂が豊前の宇佐八幡宮からの帰路に寄港し、八幡神を勧進したのが由来であるという伝承がある。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納・子供神輿が行われている。獅子舞には、「山から下りて村を荒らす獅子を、鼻高が懲らしめる」という意味があるといわれ、獅子が激しく暴れまわる特徴的な舞を舞う。また、「鼻高」が５人以上いるのが特徴で、本宮の奉納舞では５人の「鼻高」が一列に舞う。宮入時には「獅子」の舞手が暴れながら神社に入ろうとするのを、「鼻高」の舞手が止めようとする独自の儀式があるなど、他の地区ではみられない激しい舞を披露する。

浦安の舞　奉納

獅子舞奉納

⑧「荒神社の秋祭り」（木生谷・荒神社・10 月 25 日に近い日曜）

木生谷の荒神社は素戔嗚命を祀る神社。末社に稲荷神社がある。神社は正保元（1644）年に折方村の荒神社から分社したとされる。御神体は霊石といわれ、庄屋と与平という男が御神体を探して折方村の参拝したとき、２人の前をまるで生きているかのように動き回る石があったため、これを御神体としたという。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納・子供神輿が行われる。伝承では、「獅子舞は、山にいる獅子が人里に現れて暴れるため、神に頼んだところ、鼻高２人を遣わし、獅子を治めたことに由来する」という。

獅子舞は尾崎地区の赤穂八幡宮の流れをくみ、２人の「鼻高」の激しい動きがみどころである。

子供神輿の巡行

獅子舞奉納

⑨「八幡神社の秋祭り」（折方・八幡神社・10 月 25 日に近い日曜）

折方地区の八幡神社は、仲哀天皇・応神天皇・神功皇后を主祭神とする神社。かつては折方村内の集落ごとで神社が祀られていたが、現在ではすべてこの八幡神社に合祀されている。創建は明らかではないが、寛永２（1625）年にはすでに存在したと考えられる。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納・子供神輿が行われる。獅子舞は尾崎地区の赤穂八幡宮の流れをくみ、獅子と絡み合うような激しい舞が特徴である。

子供神輿の巡行

獅子舞奉納

⑩「荒神社の秋祭り」（天和鳥撫・荒神社・10 月第２日曜）

鳥撫地区の荒神社は素戔嗚尊を祀る神社。由来は明らかではないが、大宰神社・銭島八幡神社を合祀している。尾崎地区の赤穂八幡宮は、この銭島八幡神社から御神体が移されたといわれている。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納が行われる。獅子舞は享保４（1719）年にたつの市栁八幡神社から伝わり、その後、木津や高雄地区などの獅子舞も取り入れながら独自の獅子舞となったとされる。舞は芸獅子の典型的なもので、華やかな演目が 16 種伝承されている。「獅子」・「鼻高」・「唐子」・「オタヤン」・「サル」が登場するが、舞の中心は「獅子」と「唐子」である。肩車をして練り歩く「シホウカタ」や山形に組んだ梯子の上で舞う「ハシゴ」は見応えがある。特に梯子を使用する「梯子獅子」は市内ではここでしか見られない珍しい演目である。

獅子舞奉納（演目「ヤシマ」）

獅子舞奉納（演目「ハシゴ」）

⑪「荒神社の秋祭り」（天和槙・荒神社・10 月第２日曜）

真木地区の荒神社は素戔嗚尊を祀り、八幡神社を合祀している。境内には大きな自然石があり、ここに合祀している八幡神社の御神体が流れ着いたという。境内には宝暦六（1756）年銘の石灯籠がみられる。

秋祭りでは神事・獅子舞奉納が行われる。獅子舞は明治時代には行われており、一度途絶えたが、木津地区周辺の獅子舞を習得したとの伝承がある。

演目「ボタン」では、独特の形をしたカラフルな造花を「獅子」がくわえて舞う地区独自の舞となっている。

獅子舞宮入

獅子舞奉納（演目「ボタン」）

⑫「正八幡宮の秋祭り」（福浦本町・正八幡宮・10 月第２日曜）

福浦本町地区の八幡宮は仲哀天皇、神功皇后、応神天皇、日子穂穂手見命を祀り、末社に荒神社がある。由来は不明だが、境内には氏子が植えたという樹齢 400 ～ 500 年のクスノキがある。

秋祭りでは神事・子供神輿・獅子舞奉納が行われる。獅子舞は２地区に伝承されており、寺東地区の獅子舞は幕末に有年地区から、寺西地区の獅子舞は備前市三石地区から習得したとの伝承がある。

拝殿での神事

獅子舞奉納（演目「ボタン」）

⑬「龍神社・塩釜神社の秋祭り」（福浦新田・龍神社・塩釜神社・10 月第２日曜）

福浦新田地区では、現在２つの神社が合同で秋祭りを行っている。龍神社は少童神、大山祇神、道祖神を祀る。末社に稲荷神社、恵比須神社がある。塩釜神社は塩土老翁、建御雷神、経津主神を祀る。

秋祭りは現在、神事のみだが、数年前までは獅子舞が奉納されていた。

獅子舞

獅子舞奉納

⑭「八幡宮の秋祭り」（尾崎・赤穂八幡宮・10 月 15 日以降の最初の日曜）

尾崎地区の赤穂八幡宮は応神天皇、神功皇后、仲哀天皇を主祭神とする神社で、他にも多くの祭神・末社がある。江戸時代初頭（慶長年間）、池田家代官であった垂水半左衛門が鳥撫地区銭戸島にあったものを現在地に移したのが由来といわれている。

秋祭りは「神幸式」ともよばれ、祭神をのせた神輿が神社から御旅所（宝崎神社）まで往復するが、その一部として獅子舞奉納や頭人行列が行われる。頭人行列は寛文元（1661）年には実施された記録がある。

これらの行事は古式を残した特徴的なもので、獅子舞は平成 17（2005）年に兵庫県指定無形民俗文化財に、頭人行列は平成 23（2011）年に赤穂市指定無形民俗文化財に指定されている。

神幸式

神幸行列の先頭を行く「鼻高」

⑮「伊和都比売神社の秋祭り」（御崎・伊和都比売神社・10 月第 2 日曜）

御崎地区の伊和都比売神社は、伊和都比売神を祭神とする神社。末社に恵比須神社、金毘羅神社、塩釜神社がある。創建は明らかではないが、赤穂市内唯一の式内社であり、平安時代頃にはすでに存在したものと考えられる。『播州赤穂郡誌』によると、もともとは「大園」とよばれる畳岩の上に祀られていたものを、天和 3（1683）年に浅野長矩が現在地に移したという。

秋祭りは「御崎祭」ともよばれ、神事・獅子舞奉納・子供屋台が行われる。屋台は一度中断していたが、昭和 47（1972）年に復活した。子供屋台の神社前での「練り」や「差し上げ」は大人の手で行われる。獅子舞は尾崎地区の赤穂八幡宮の流れをくみ、激しい動きをみせる。また、本宮の宮入は夜遅くに行われ、篝火の中で「獅子」と「鼻高」が激しく舞いながら参道を往復する舞がみどころである。

屋台差し上げ

獅子舞奉納

秋の祭礼・獅子舞等を実施している神社　　※白抜のものは 24 号掲載。

本パンフレットを作成するにあたり、各地区の自治会・保存会のみなさまにご教示いただくとともに、多大なるご協力をいただきました。最後になりましたが、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。